

脳出血クリニカルパス(せん妄予防ケア含む)

氏名

病日	入院日	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8~17日目(退院日)		
日付	/	/	/	/	/	/	/	/ / / / / / / /		
観察	4時間毎に(血圧・体温・脈拍測定)に検温します。少しの変化でもお知らせください。		起床時・午前・午後・夕方に検温(血圧・体温・脈拍測定)します。		起床時・午前・夕方に検温(血圧・体温・脈拍測定) * 状態によって変わります。					
	意識の状態、手足の動き、瞳の大きさを観察を行います。		※血圧を下げる薬の点滴している時は4時間毎に血圧を測定します。							
	歩けない場合は、足の関節の運動を行い、足の腫れ、発赤、痛みの観察を行います。									
安静	ベッド上で動けます。		リハビリに合わせて安静度が変更になります。* 転んだりしない方法で動けるように介助します。							
	昼夜逆転や不眠がある場合は気分転換や日光を浴びるなどのケアを行い、日中の活動量を増やすなどの支援をします。									
食事	飲み込みの状態を確認後、食事が始まります。飲み込みの状態です。固さや食べ方が変わります。 * 食事は塩分制限食です * 病院食以外の食べ物は持ち込みはご遠慮ください * むせたり、食べられない状態では絶食や流動食となります。									
清潔	看護師が体を拭きます。		血圧を下げる点滴が終了後から、入浴することができます。							
排泄	ベッドの上で尿器などの使用します。		トイレへ行くことができます。尿が出ない場合は、排尿用の管が入ります。便が出ない時は下剤または浣腸を使用できます。							
診察処置	必要時心電図モニターがつきます。医師の回診があります。									
リハビリ	リハビリの必要な方は、リハビリ医師の診察後、血圧の値に注意しながらリハビリを行います。									
検査	頭のCT、胸のレントゲン、心電図を行います。		頭のCTを撮ります。 必要時、頭のMRIを撮ります。		必要時、足のエコーを行います。 採血をします。		* 症状の経過に応じて足のエコーを行います。 * 適宜、頭部CT,採血を行います。			
薬物療法	点滴をします。 * 必要時血圧を下げる薬を点滴します。		食事量に応じて点滴量を減量します。							
	今まで飲んでた薬を看護師へ渡してください。必要な薬のみ継続になります。必要時、血圧を下げる薬がはじまります。睡眠薬をお持ちの方は、種類によって中止・変更することがあります。									
	せん妄症状(時間や場所の感覚がわからなくなる、幻覚、幻聴、睡眠のリズムが乱れる、怒りっぽくなる、治療のための管を抜いてしまうなど)が見られる場合は薬剤の使用を検討します。									
	状況により看護師が薬を管理します。		薬の管理が自分でできそうか確認後、自己管理を開始します。							
	薬の管理が自分でできそうか確認します。									
説明	医師より病状や検査、退院後について説明があります。必要時、医療相談室と介護保険の説明をします。		医師が、病状の説明と今後の方針を説明します。							
	せん妄について説明を行います。時計・カレンダー・写真・本人の使用していた毛布・枕を持参してください。つじつまの合わない話があったときは、無理に正すことはしないようにしましょう。		退院時に地域連携パスの説明をします。							
	病棟内の構造と入院生活上の注意点を説明します。		必要時、医療相談室と介護保険の説明をします。							
指導	入院治療計画書と地域連携パスを説明します。		自宅退院の場合、退院前までに、栄養士が食事内容について説明を行います。		薬剤師が薬の説明をします。			退院前に、薬剤師が薬の説明をします。		
			自宅退院の場合、再発予防の説明をします。							
	必要時ナースコールを押して看護師を呼びましょう。ナースコールを押すことができない場合には、看護師から定期的に声をかけます。必要であれば離床センサーを使用することがあります。									
目標	・血圧が安定する。・麻痺、意識状態、嘔気症状が大きく変化しない。		・面談後、自宅退院または転院が決まる。							
	・地域連携パスの必要性がわかる。		・定期的な排便がある。							
	・安静が守ることができる。		・深部静脈血栓症がない。							
	・病気、治療方法(薬など)がわかる。		・自宅退院の場合は内服薬の自己管理ができる。							
	・状態に合った食事ができる。									
	・退院の目標がわかり、退院に向けて準備ができる。									
	・状態に合わせて転倒転落なく安全に過ごすことができる。									

* 症状・経過によってはスケジュール通りにならない場合があります。

2003年7月作成(2023年5月改訂) パス委員会承認 聖隷浜松病院B3病棟